

# 連載

## CAMA試験合格者の声

### アセットマネジメントに対する 私の意識変化

#### ～ 認定アセットマネージャー国際資格 (CAMA) 資格を取得して～



文=新田 耕司 中央復建コンサルタンツ株式会社 社会インフラマネジメントセンター センター長  
text by Koji NITTA

私は、2017年12月に実施された日本で最初のCAMA試験を受験し合格しました。私が所属する中央復建コンサルタンツ(株)では同年5月に新たな組織“社会インフラマネジメントセンター(社会IMC)”を立ち上げ、同年9月にISO55001(アセットマネジメントシステム)とJISQ55001を認証登録しました。つまり、私がCAMA試験を受験し合格することは、会社として必然的なことでした。

私は、2004年頃からアセットマネジメントに類する業務に携わってきました。当初は、維持管理に必要な予算を平準化し、説明責任を果たすための資料作りの

業務であると割り切っていました。維持管理に必要な費用は、各種施設の過去の劣化状況及び現況を踏まえ、劣化曲線を導出し、経年的に変化する機能水準と修繕費を関連付けることによりライフサイクルコスト(LCC)が最小になるタイミングが最適解であるという前提で算出していました。割り切りながらもコストだけでなく、劣化曲線の精度向上に傾注する道路事業者が存在したこともあり、施設のパフォーマンスやリスクとしての劣化曲線や機能水準の変化も考慮していました。しかし、その当時は、道路構造物においては点検周期等が法令で義務化

される前で、道路構造物(主に橋梁)の状態把握が不完全な状況であったため、極めて不確実な劣化曲線や機能水準の変化に基づいて将来推計をしていました。また、予算制約があることが条件であり、これまでに執行された予算と乖離がないように配慮することに腐心していました。その当時の私の中のアセットマネジメントとは、次の①、②により必要な予算が確保できるシナリオを作るものでした。①過年度までに執行された予算に基づき今後の予算を計上するのではなく、もっともらしい根拠に基づいて予算(費用)を算出する。②①で算出された予算が担当

部局内でコンセンサスが図られ、議会等でアカウンタビリティが果たせる。

その後も各種施設の点検・調査・健全度評価業務をしながら維持管理計画策定業務、長寿命化修繕計画策定業務、公共施設等総合管理計画策定業務など、アセットマネジメントに類する業務に携わっていました。ここで、私がアセットマネジメントに類するという表現をしていることには意味があります。アセットマネジメントは、工学的アプローチ、経済的アプローチ、経営的アプローチにより関係者間のコンセンサスを図りアカウンタビリティを果たした上で、施設をコスト、パフォーマンス、リスクのバランスを図ることにより適正に管理することだと考えています。工学的アプローチは、対象施設の現状を把握するとともに劣化の将来予測をすることです。経済的アプローチは、施設を維持する上での社会的便益やリスク評価等を行うことです。経営的アプローチは、適正な資金調達や人員配置、さらには民間活力をも視野に入れたガバナンスを構

築することです。しかし、現在のアセットマネジメントは、施設に係るLCCの最小化を最大の目標とし、将来に必要なコストを平準化することにより適正な予算が確保（要求）できる仕組みづくりであることが多く、前述したアセットマネジメントの概念には程遠いと実感しています。したがって、私が現在も手掛けている既存施設の将来を計画する業務は、いまだアセットマネジメントに類するものなので、アセットマネージャーとなってからは、以前にも増してコスト、パフォーマンス、リスクのバランスを意識し、施設の社会的価値及び経済的価値を最大にすることがアセットマネジメントの目指すところであるという認識が高まり、下図に示す概念を社内外でアピールするようにしています。下図は、インフラメンテナンスに限定した説明図ですが、新たな施設の計画や設計、さらには普段の生活においても“価値を最大化する”ことは共通した目標であると考えられるような意識変化が私の中で芽生えました。

現在は、巨大地震、気候変動、人口減少などを背景に、例えばまちづくりに着目すると、インフラ以外の公共施設、いわゆるハコモノの複合化や多機能化、空き家や遊休地の存在、公共空間利用など、これまで以上に多くの課題を解決する必要があります。これらは、アセットマネージャーが主体となって取り組むことだと思います。しかし、我が国においてはアセットマネージャーの知名度が低く、アセットマネジメントを冠する業務が希少であることが実態です。したがって、今後は実務を通して、アセットマネージャーの知名度向上と業務遂行のための技術者要件に加えられるよう努めたいと考えています。

につたこうじ/中央復建コンサルタンツ株式会社 社会インフラマネジメントセンター センター長。中央復建コンサルタンツ株式会社1990年入社。鉄道構造物の設計、各種土木構造物及び建築物の点検・調査・変状（損傷、劣化）要因分析・補修・補強設計業務に従事し、2004年頃から「アセットマネジメント」にかかわり、現在ではインフラマネジメント系業務を主要銘柄としている。実務の傍ら、明石工業高等専門学校非常勤講師（メンテナンス工学）も務める。

